



完全保存版「自然素材住宅塾」



今の住まいと将来の住まいに役立つ情報満載

こんにちは。駿河屋の九代目当主一樹です。昔の住宅は古くさいし、今の住宅はカッコイイ！たしかにそうかも知れませんが、しかし、その古い住宅をつくっているひとつひとつの素材を見ると、実は本当に心地よくさせるのは、無垢の木や自然由来の塗り壁だったりするんです。詳しい話は今日の内容で勉強しましょう！

それでは、今月も子育てママにお役にたてる、おうちの中で大切なこと、発信します！

【今の住宅と昔の住宅の違い】

今の一般的な住宅は、合板フローリングとビニールクロスでできています。

水回りの床は、クッションフロアと言われる塩化ビニールで出来たシートが貼ってあります。

合板フローリングは、表面だけ0.3mm程度の木目の綺麗な木が貼ってあり、中は南洋材などを薄くスライスしたものを貼り合わせて接着剤で固めてあります。

最近はなんと、木目が印刷されたシートが貼られています。

D印刷など大手の印刷会社が作っています。

利点としては、乾燥収縮がなく安定している素材であるということ。

しかし

接着剤で固めてあるので、化学性の匂いがします。

以前（2003年6月以前）に比べれば少なくなりましたが、化学物質が放出されています。

表面はコーティングされているので、湿度を調整することは出来ず、冬は冷たく、夏は素足だとベタベタします。

壁や天井は、名前の通りビニールですから部屋の中はビニールで覆われたビニールハウスと同じ環境です。

当然、湿度の調整は出来ませんし、経年劣化で剥がれてきます。

解体すると産業廃棄物になってしまいます。

では、昔の住宅はどんなだったでしょう

壁は漆喰や土など自然由来のものを塗り込んでありました。

床は断面を見ると、年輪が見えるように本物の木を使っていました。

木は自然の断熱材効果もあり湿度を吸収、放出を繰り返します。

経年変化で味わい深くなります。

削ればまた、素敵な香りと木目が蘇ります。

漆喰や珪藻土、土なども、湿気を吸ったり、吐いたりするので、室内の湿度は比較的安定しています。

それに、フィトンチッドと呼ばれる森林浴と同じ効果もあります。

当社の宿泊体感型モデルルーム「空まめの木」にお越し頂く皆様は

「森にいるみたいに落ち着く」と言って下さいます。

今の一般的な住宅は、火災になると、焼け死ぬのではなく、まず新建材から出るガスに巻かれて動けなくなって死亡しそれから焼けるのです。

漆喰や珪藻土は、燃えないばかりか断熱効果も期待できます。

どちらが良いかは一目瞭然ですが大切なのは、正しく知って、選ぶ事です。

また、素材を適用する場所、たとえば床や壁や天井をどのような優先順位をつけて良い素材を決めたらよいのかも知る事はとっても大切です。

なぜなら予算は無限ではないからです。

住まいづくりにおいてどの部分を最優先にしたらよいのか

どの部分は後回しでも、あとから施工可能なのか

そもそも、あまり気にしなくていいのはどの部分なのか。

正しく知って、コストバランスを見極めご自身に合った選択をすることがとっても大切なんです。

さて、いかがでしたか～！今日のハナシ。現代住宅よりもむしろ、昔の住宅をつくっていた素材をつかうことが、実は居心地が良くなる住まいが作れるのです。

当然、断熱や気密、エコも大切ですが、一番体に触れる部分、室内空気をつくっている素材に気を配ることも大切なんですよね。

もっと詳しい内容を知りたいと言う方はメルマガ

社長の「自然素材住宅論」はこちらからお申込できます。(短縮URL)

ニックネームでの登録も可能です。 <http://p.tl/h4XH>

